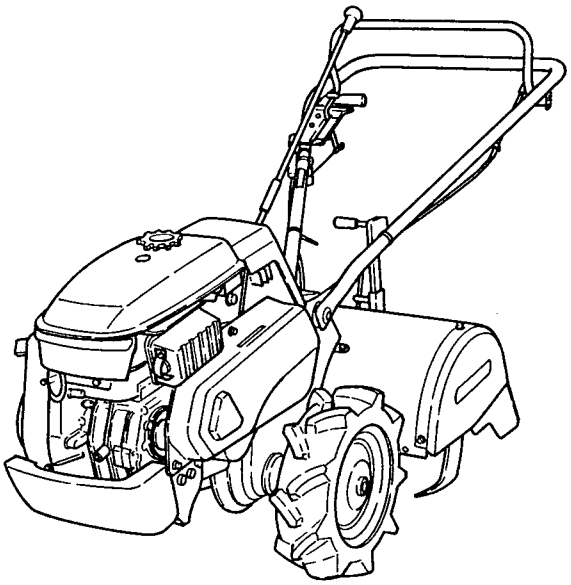
クボタロータリ専用機

取扱説明書

TR680



安全宣言
安全はクボタの願い

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

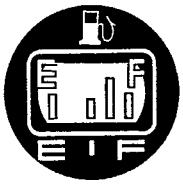
Kubota

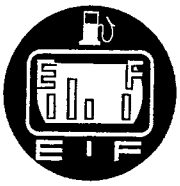
操作装置のシンボルマーク

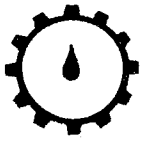
運転操作及び保守管理のために、操作装置のシンボルマークが使用されています。
これらの表示に従って誤操作のないようご注意ください。

R ・・・ 変速位置が後進

・・・ チョークレバの調節

 ・・・ 燃料給油レベル
上限

 ・・・ 燃料給油レベル
下限

 ・・・ ギヤーオイル

・・・ ガソリン燃料

O ・・・ 燃料コック「開」

C ・・・ 燃料コック「閉」

はじめに

このたびは本製品をお買上げいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は、製品の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明しています。
ご使用前によくお読みいただいて十分理解され、お買上げの製品が秀れた性能を発揮し、かつ安全で快適な作業をするためにこの冊子をご活用ください。
また、お読みになった後必ず大切に保管し、分からないことがあった時には取出してお読みください。なお、製品の仕様変更などにより、お買い上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

⚠安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示がある警告ラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお、警告ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買い上げの販売店に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

■注意表示について

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について次のように表示しています。

⚠ **危険**：注意事項を守らないと死亡または重傷を負うことになるものを表示します。

⚠ **警告**：注意事項を守らないと死亡または重傷を負う危険性があるものを表示します。

⚠ **注意**：注意事項を守らないとけがを負うおそれがあるものを示します。

重　要：注意事項を守らないと損傷や故障の恐れがあります。

補　足：その他、使用上役立つ補足説明をしています。

目　次

安全に作業するために …… 1

警告ラベルとその取扱い …… 6

サービスと保証について …… 8

1．もうおぼえられましたか　各部分の名称と装置の取扱い …… 9

2．作業前にこれだけチェック　作業前の点検について …… 12

3．このように運転します　上手な運転のしかた …… 14

4．こんなときどうする　簡単な手入れと処置 …… 16

5．作業が終ったら …… 20

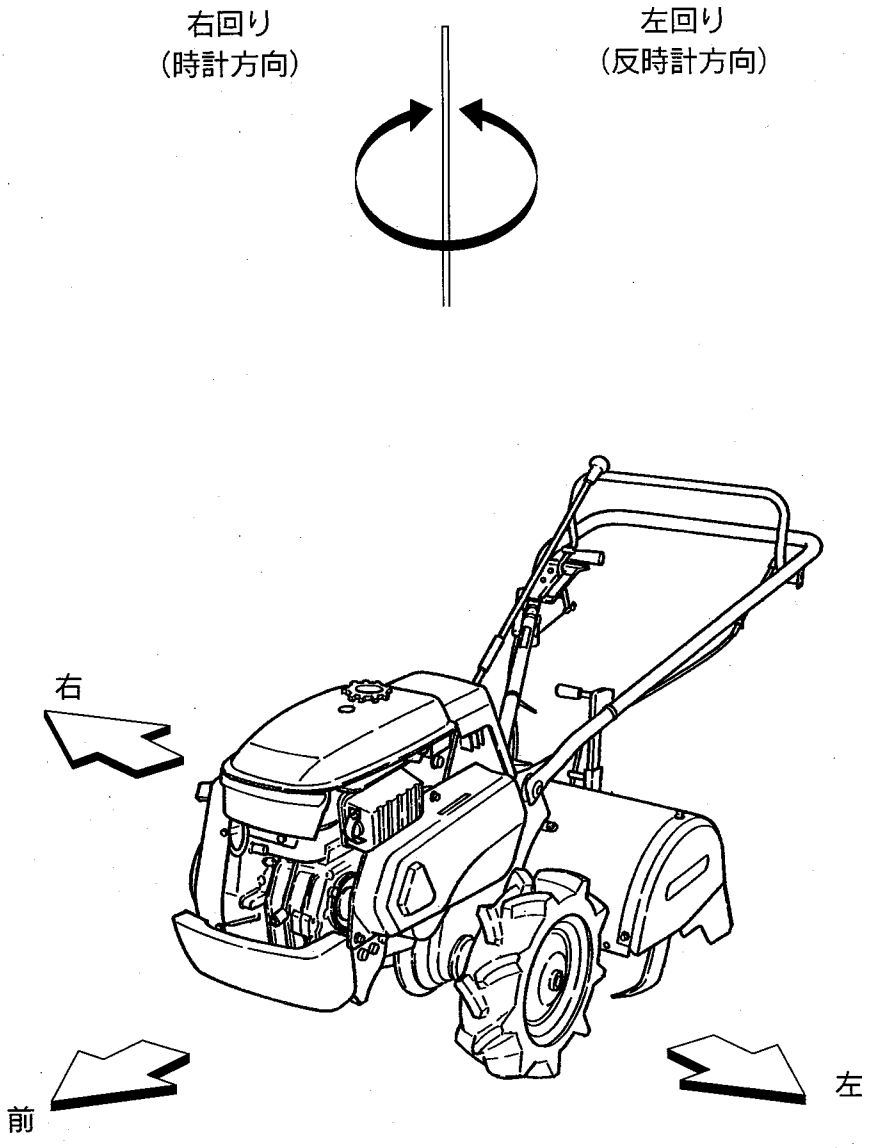
6．E仕様機（セル付）の取扱い …… 21

付記・主要諸元、走行速度、一覧表、主な消耗品一覧表、標準付属品 …… 26

⚠ 安全に作業するために

本機をご使用になる前に、この取扱説明書をよく読み理解した上で安全な作業を行って下さい。
安全に作業をするため、ぜひ守っていただきたい注意事項は下記のとおりですが、これ以外にも本文の中で「⚠警告サイン」として説明のつど取り上げております。

またこの取扱説明書で使用している〈前後・左右・左回り・右回り〉などの〈用語〉は図示のように決めております。



⚠ 安全に作業するために

本機をご使用になる前に、この取扱説明書をよく読み理解した上で安全な作業を行って下さい。安全に作業をするため、ぜひ守っていただきたい注意事項は下記のとおりですが、これ以外にも本文の中で「⚠警告サイン」として説明のつど取り上げております。

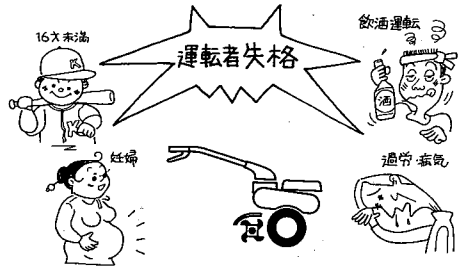
運転する前に

使用する人は

機械の運転操作、特に主クラッチ「切」はすばやくできるよう、よく練習し、充分になれてから作業すること。

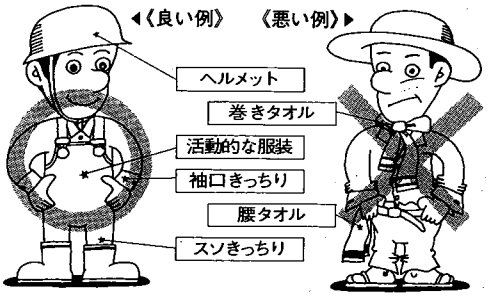
次の項目に該当する場合は機械を使用しないでください。

☆本書及びラベルの内容が理解できない人
☆視力不足等のため表示内容が読めない人
☆飲酒時や体調が悪い時または妊娠中の人
☆16才未満の人



使用する人の服装は

回転部分や操縦装置にひっかかり事故の原因になる、だぶついた服、腰タオル等はやめてヘルメット・安全靴・保護メガネや手袋などを必要により着用する。

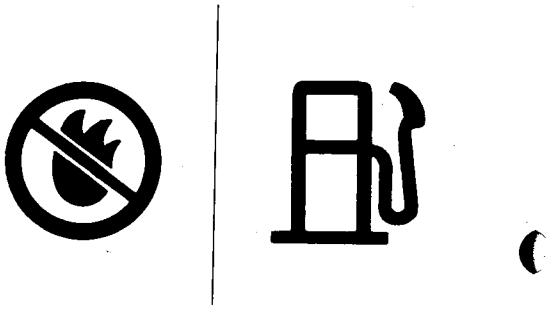


他人に貸すときは

事前に運転のしかたを教え、「取扱説明書」を必ず読んでもらうこと

給油・注油するとき【火気厳禁】

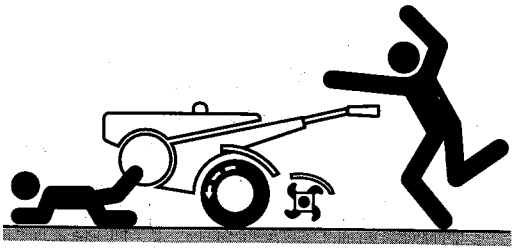
燃料の給油・補給は必ずエンジンを停止し、こぼれた燃料はふきとり、煙草を吸ったり火気をちかずけない。



始動するとき

エンジンをまわすとき

必ず本機の主クラッチレバーを「切り」変速レバーは「中立」にして付近に人（特に子供）をちかずけない。もし主クラッチや変速が入っていると車体や爪軸が急に動いて事故になる恐れがあります。



排気ガスに注意

排気ガスによる1酸化炭素中毒の恐れがある換気の悪い所（ハウス、車庫等）では使用しない。

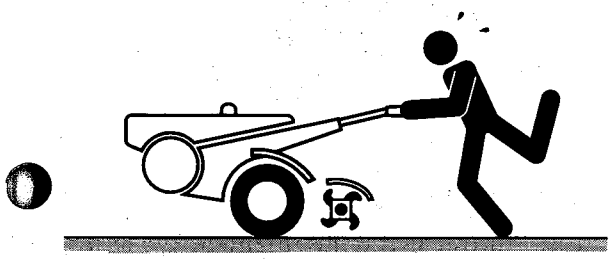
⚠ 安全に作業するために

移動・作業するとき

発進するとき

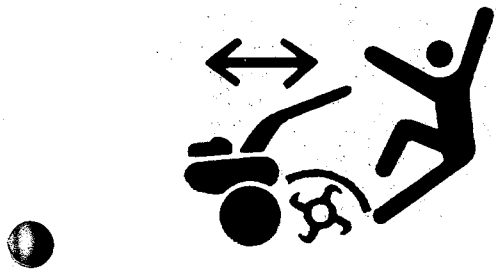
車速の最低速でクラッチレバーの「入り」はゆっくり入れ「切り」は素早くの操作を習熟した上で使用ください。

小走りになるようなスピードを出したり、急発進、急旋回はしない。



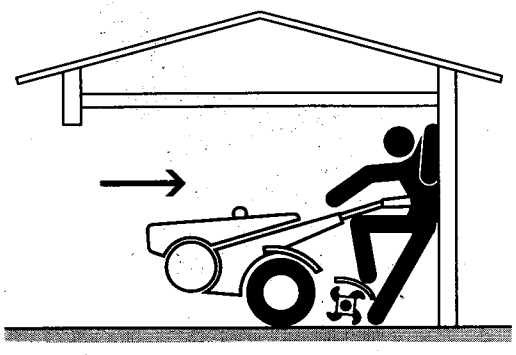
耕うん作業時

車軸（ロータ）・爪軸（ロータリ）作業では機体が思わぬ方向に飛び出し転倒や人身事故の恐れがありますので、主クラッチは素早く切ること。



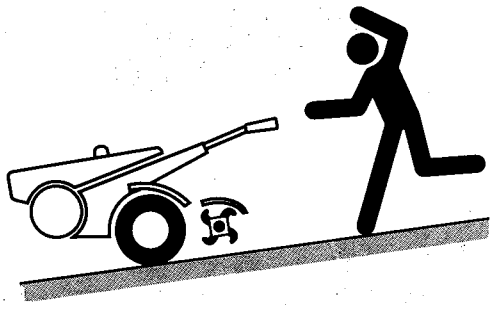
ハウス・車庫等での移動

後方の壁・支柱・天井など障害物にはさまれる恐れがありますのでエンジンを停止して移動する。



坂道を移動するとき

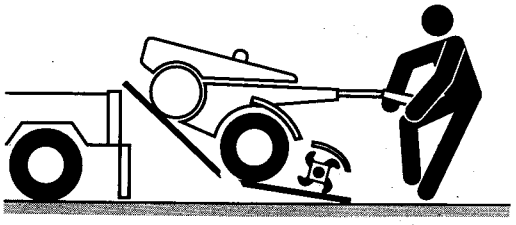
坂道、ほ場の出入り、畦の乗り換え等の途中で主クラッチを「切」ったり、変速を「中立」にすると、機体がおもわぬ方向に進み危険です。変速操作は機械が平坦な場所以外では行なわない。また、坂道や凹凸・カーブの多い路上で高速運転すると、転倒したりして危険ですから必ず低速運転のこと。



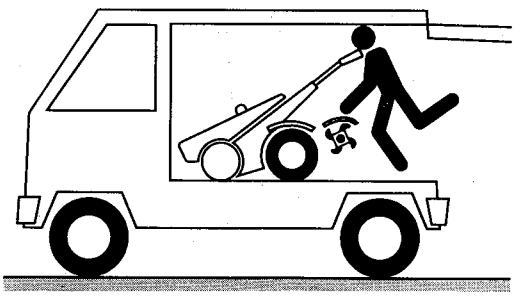
積み降ろしするとき

丈夫なすべり止めをしたアユミ板を確実に固定し、足元に注意し変速は最低速で上りは「前進」下りは「後進」にする。

途中で主クラッチは切らないこと、デフロックをすること、変速も操作しないこと。



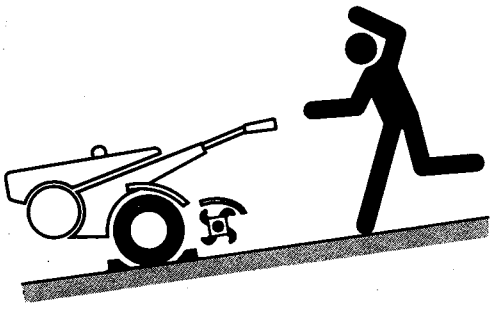
車などで運搬するときは、必ず荷台に天井がない車を使用する。



⚠ 安全に作業するために

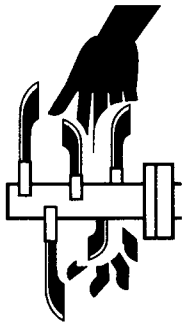
回転している爪に注意
ハンドル部を持ち上げ旋回する時足元及び周囲に充分注意しないと回転する爪に巻き込まれ重傷の恐れがあります。

機械から離れるとき
エンジンは必ず停止させ、平坦で安定した場所に駐停車します。
やむなく傾斜地に止めるときは車止めをする。

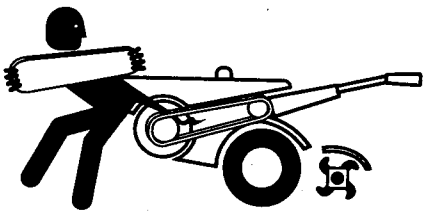


作業が終った時

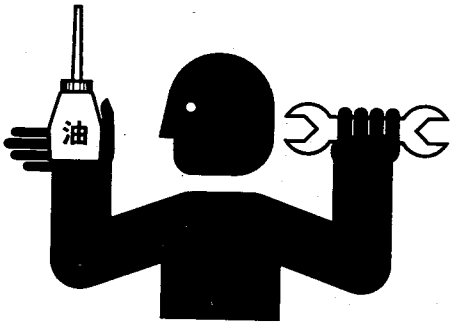
掃除をするとき
車軸（ロータ）爪軸（ロータリ）等に巻き付いた草・ワラ・泥土等を取り除く時は必ずエンジンを停止する。



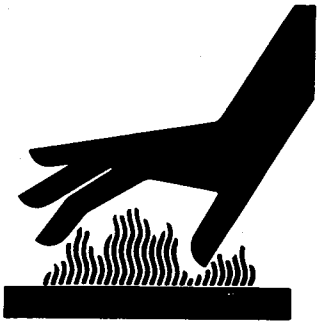
カバー類は必ずつける
ベルトカバーなどの防護装置を取り外す場合は必ずエンジンを停止して、作業後は取り外したカバー類は元どうり組み付けること。



1年毎の定期点検を
機械の整備不良による傷害事故などを未然に防止するため1年毎に定期点検・整備を受け、特に燃料パイプや電気配線は2年毎に交換して安全に作業出来るようにする。



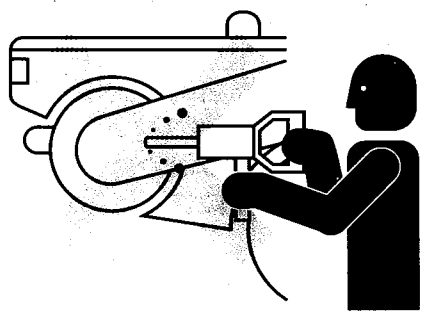
点検・整備をするとき
点検・整備・アタッチメントの脱着などは機械が転倒しない平坦な所に停車し、エンジンを止め、高温部が冷めてから行う。



⚠ 安全に作業するために

機械の改造禁止

機械を改造しないこと、改造すると、機能に影響を及ぼすばかりか人身事故にもつながる。



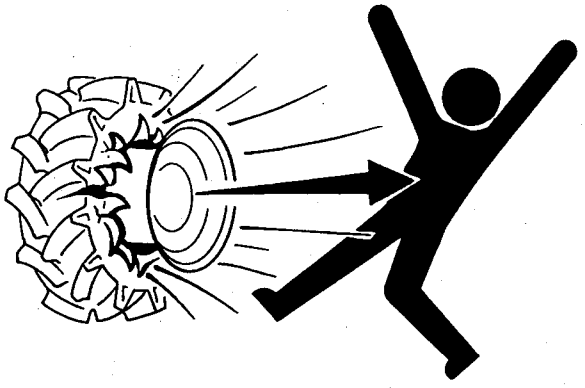
タイヤの整備

タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を，必ず守ってください。空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり，死傷事故を引き起こす原因になります。

タイヤに傷があり，その傷がコード(糸)に達している場合は，使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。

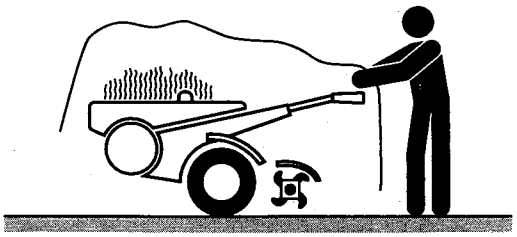
タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。

(特別教育を受けた人が行うように，法で決められています。)



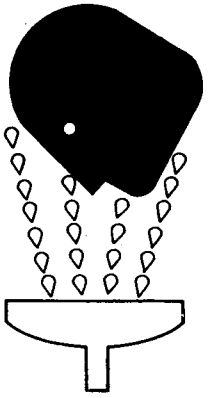
格納するとき

機体に保管用カバーをかけるときは火災予防のため高温部が冷めてから行う。

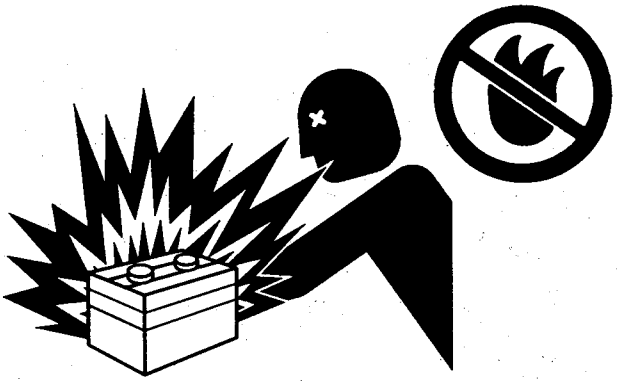


バッテリ点検するとき

バッテリ液は希硫酸なので扱いには注意し，体や衣服に付けないようにしてください。もし目や体に付着した場合はすぐ水で洗って，すみやかに医師の診療を受けてください。



バッテリは充電中可燃性ガスを発生し爆発の危険性がありますので，タバコをすったり火気を近づけないでください。



公道走行禁止

移動する時は一般公道を走行しない、車などで運搬すること。

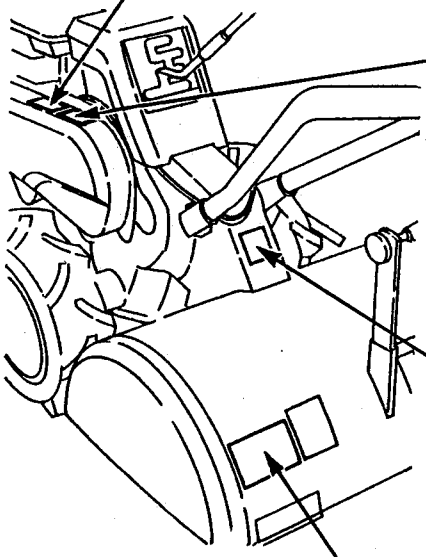
⚠ 安全に作業するために

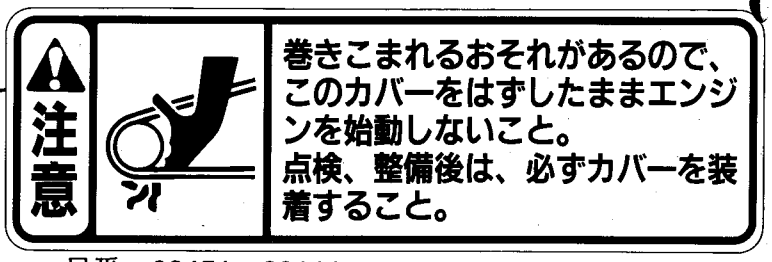
警告ラベルとその取扱い

【ラベルのメンテナンス】

(1) 警告ラベルは、いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
(2) 警告ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買い上げの販売店に注文し、新しいラベルに取り替えてください。
(3) 新しいラベルを貼る場合は、汚れを完全にふき取り乾いた面にして元の位置に貼ってください。

品番　60932－48251

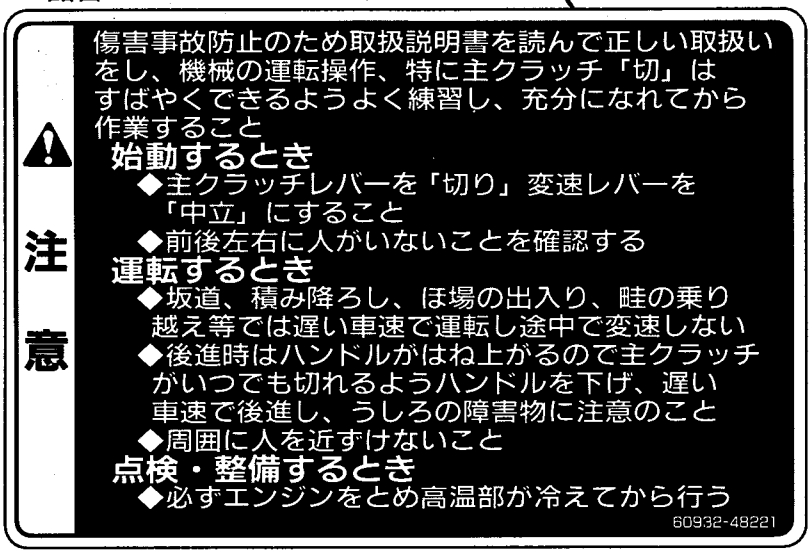




品番　62451－28111

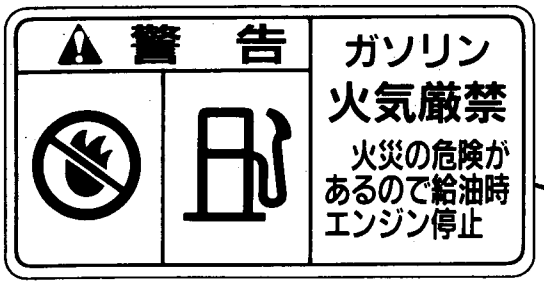
品番　60711－29121

品番　60932－48221

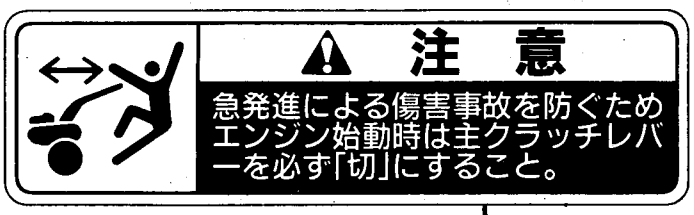


⚠ 安全に作業するために

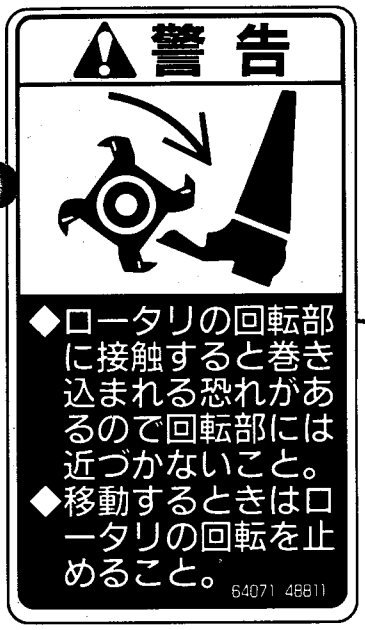
品番　60932 - 48211

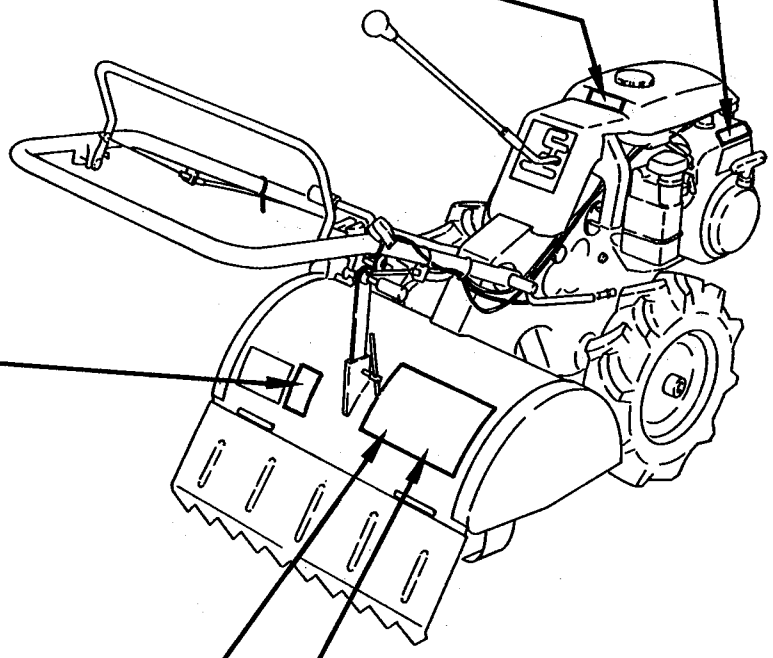


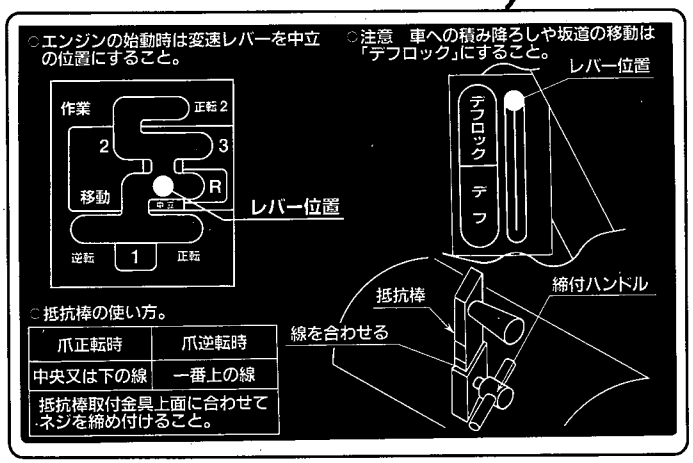
品番　60932 - 48231



品番　64071 - 48811

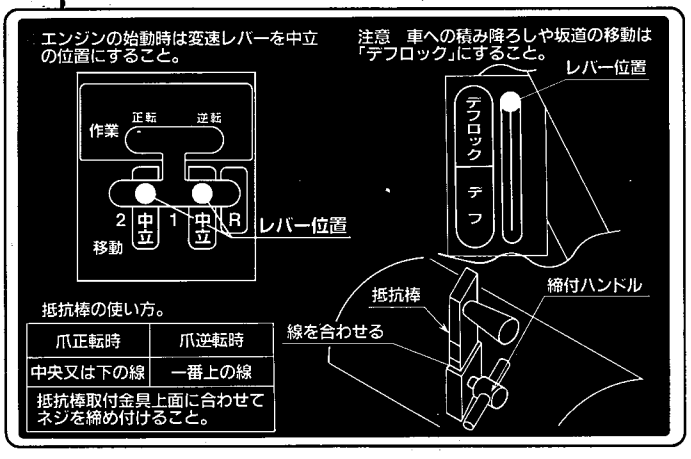






TR70　　品番　60731-42231

（縮小43.5）



TR60　　品番　60721-42232

（縮小43.5）

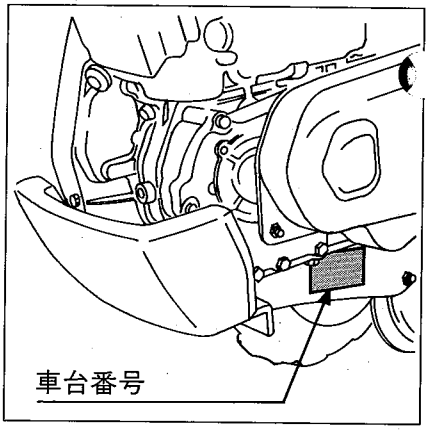
サービスと保証について

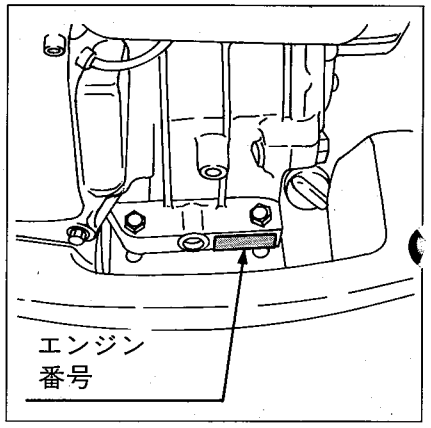
ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについて、ご不満・ご要望・ご意見などがございましたら下記の**「ご相談窓口」**にご遠慮なくお寄せください。
その際（1）商品名と車体番号
（2）搭載機関の型式名と機関番号を併せてご連絡ください。

サービスの実施

お買い上げいただきました販売店・農協が点検・修理をはじめサービスのご相談などをお受けいたします。
なお、部品のご注文の際は、販売店・農協に純正部品表を準備しておりますので、そちらでご相談ください。





⚠ 警　告

機械の改造は危険ですので、改造はしないでください。
改造した場合や取説に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。

安全鑑定適合番号
クボタTR60-21120
クボタTR70-21121

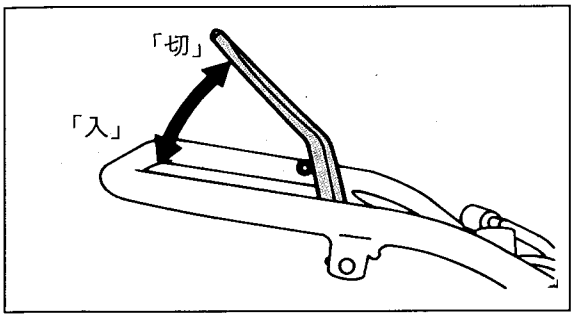
1　もうおぼえられましたか？●各部の名称と装置の取扱い

1　主クラッチレバー

エンジンからの動力を断続します。

(1) レバーを握るとクラッチが「入」ります。

(2) レバーを離すとクラッチが「切」れます。



⚠ 警　告

●傾斜地や後進するときなどは、ハンドルが持上がり危険な場合がありますので、主クラッチをゆっくり操作してください。

●狭い場所や後進の運転についてはエンジンの回転を低速にし後方や上方などまわりの安全を確かめゆっくりと主クラッチ操作をしてください。

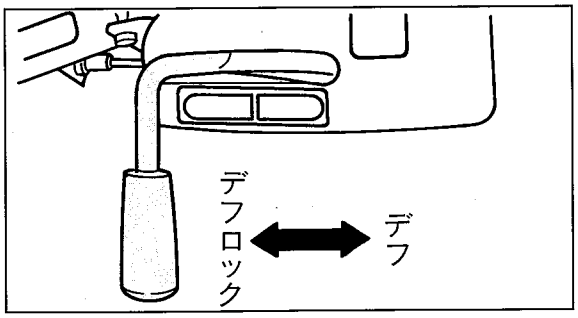
●危険を感じたら、早めに手を離してください。

3　デフロックレバー

左右の車輪の回転を「同軌」・「差動」さすレバーです。

(1)「デフロック」は、左右の車輪が同回転します。

(2)「デフ」は、左右の車輪が差動回転します。



⚠ 注　意

●「デフ」の位置でトラックへの積み降ろしや坂道移動をすると、思わぬ方向にハンドルを取られる場合があり危険です。発進する前に必ずレバーを「デフロック」の位置にしてください。

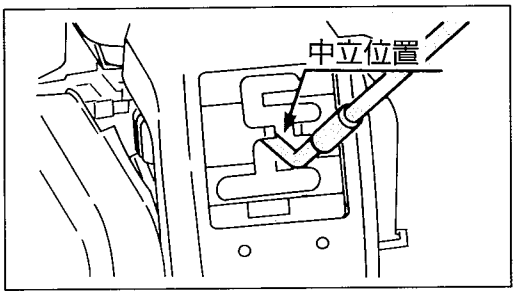
2　変速レバー

変速操作は主クラッチ「切」で行います。

●TR70

(1) 変速は前進３段、後進１段です。

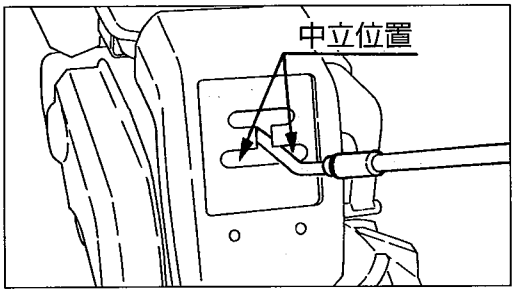
(2) ロータリは前進1段で「正転」・「逆転」前進２段で「正転」です。



●TR60

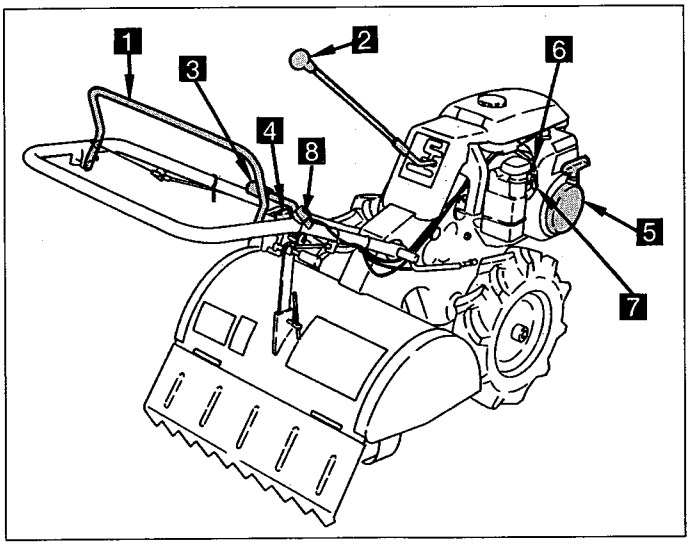
(1) 変速は前進２段、後進１段です。

(2) ロータリは前進１段で「正転」・「逆転」です。



⚠ 警　告

●エンジンを始動する前に、必ずレバーを「中立」にしてください。



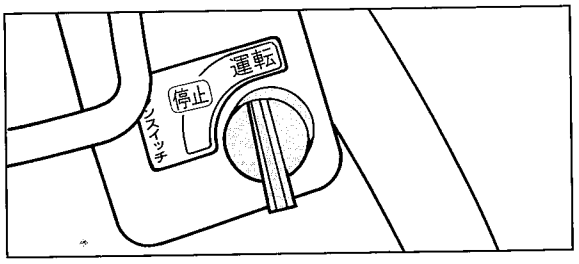
1　もうおぼえられましたか？●各部の名称と装置の取扱い

4　エンジンスイッチ

エンジンの運転・停止に用います。

(1)「運転」の方向に回すと始動が可能です。

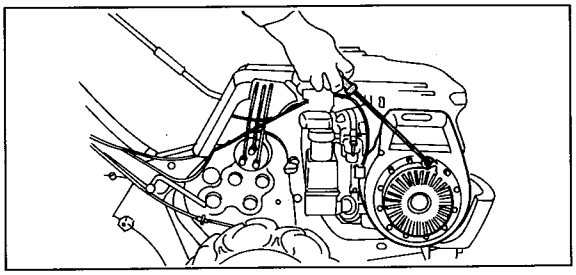
(2)「停止」の方向に回すとエンジンが停止します。

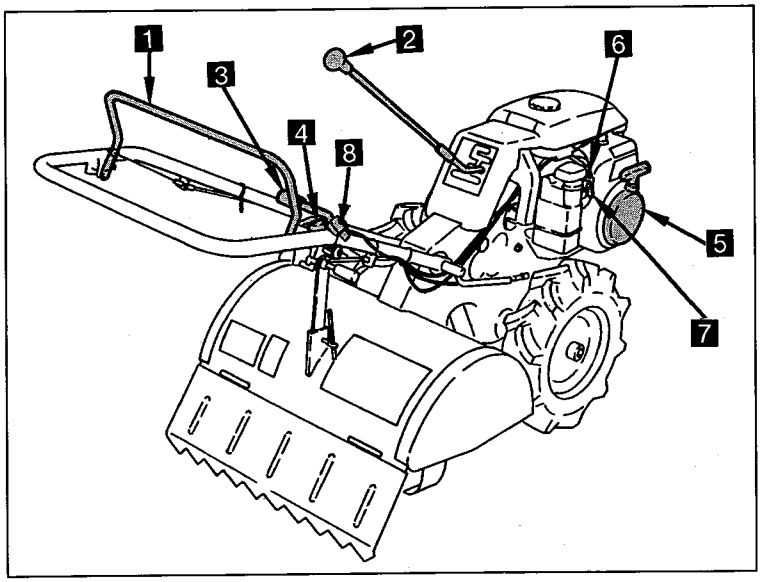


5　リコイルスタータ

エンジンの始動をします。

(1) リコイルを引っ張ると始動します。



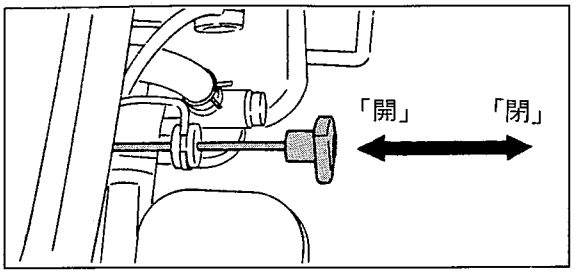


6　チョークロッド

寒冷時にエンジンがかかりにくい時使用します。

(1) 始動前…ロッドを引く（チョーク閉）

(2) 始動後…ロッドを押す（チョーク開）

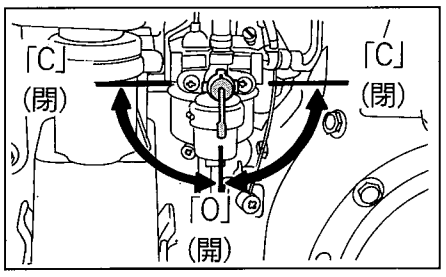


7　燃料コックレバー

燃料タンクからエンジンへ燃料の「供給」・「停止」をします。

(1)「C」（閉）…燃料停止

(2)「O」（開）…燃料供給

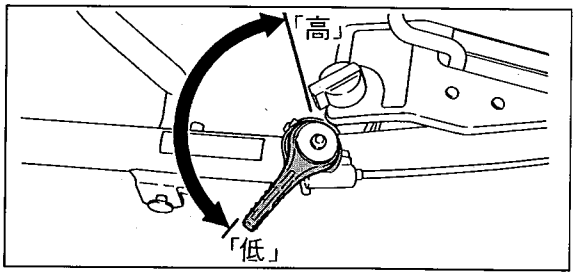


8　スロットルレバー

エンジン回転の調節をします。

(1)「高」の方向に回すと回転が上がります。

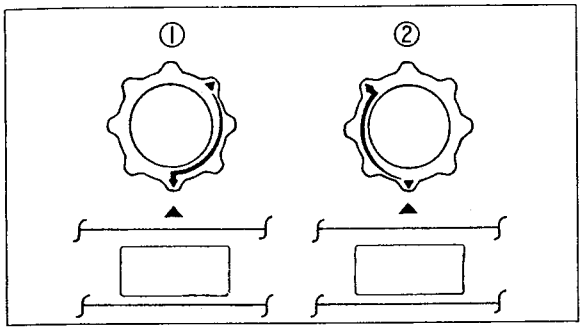
(2)「低」の方向に回すと回転が下がります。



1　もうおぼえられましたか？●各部の名称と装置の取扱い

9　フューエルキャップ

フューエルキャップ締付け方は①②の順に印を合わせて締付けてください。（外す時は逆）



燃料の種類	規定容量
自動車用レギュラーガソリン	2.0ℓ

⚠ 警　告

●給油中はエンジン停止・火気厳禁・くわえ煙草での給油は絶対にしないでください。
●燃料がこぼれた時はきれいにふき取ってください。

重　要

●燃料タンク内にゴミや水及びその他異物が混入しないように、注意してください。

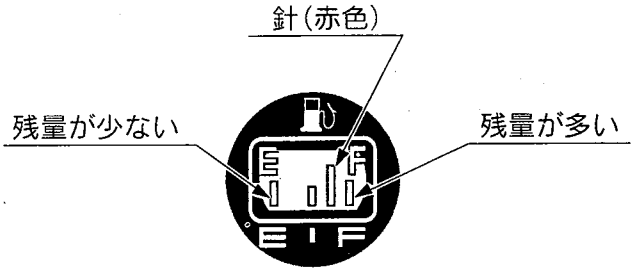
⚠ 注　意

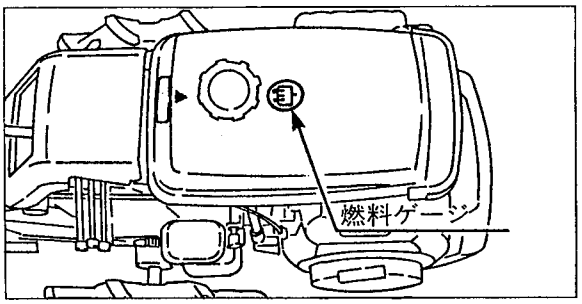
●燃料は規定量（赤色ゲージ）以上いれないでください。

10　燃料ゲージ

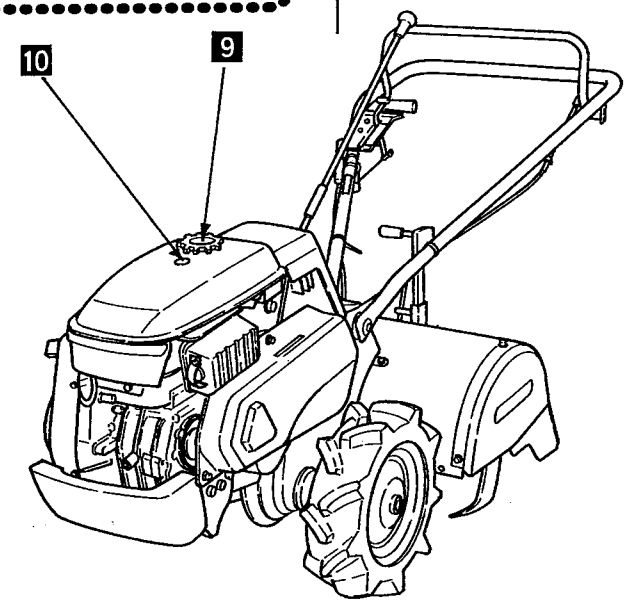
機体を水平にし燃料ゲージで目安の残量を確認してください。

(1)　「E」側に針があると燃料が減っています。
(2)　「F」側に針があると燃料はあります。





●ラベル（フューエル）



2　作業前にこれだけチェック●作業前の点検について

警　告

☆給油中はエンジン停止・火気厳禁。くわえ煙草での給油はしないでください。
☆燃料がこぼれたときはきれいにふき取ってください。
☆平坦な場所に機械を安定させて点検してください。
☆

●調子良く作業するために〔詳細は「管理機の簡単な手入れと処置」の章参照〕

燃　　料
➡自動車用レギュラーガソリンを補給します。
➡タンク容量……約2.0ℓ
➡燃料ゲージ……燃料タンク内の残量がわかります。

エンジンオイル
➡エンジンを水平にして、レベルゲージで規定量あるか点検します。
➡不足している場合は、クボタ純オイルを補充します。
（夏……G30　　冬……G20）

ミッションオイル
➡ロータリ爪接地状態で検油口まであるか点検します。
➡不足している場合は、クボタ純オイルを補充します。（M80B又はUDT）

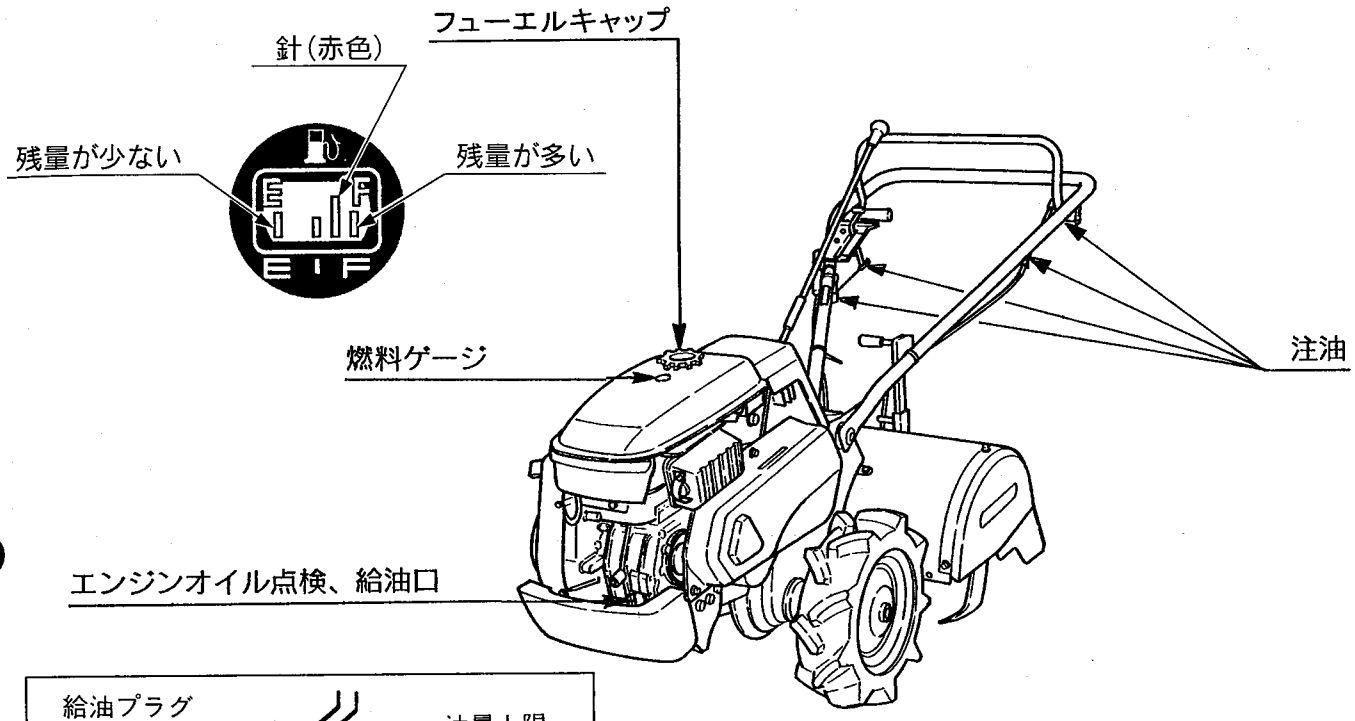
エアクリーナ
➡オイルパンの規定線まであるか点検します。
➡不足している場合は、エンジンオイルを補充します。
➡オイルパンのオイルが汚れていないか点検します。
➡エアクリーナエレメントにゴミが付着していないか点検します。

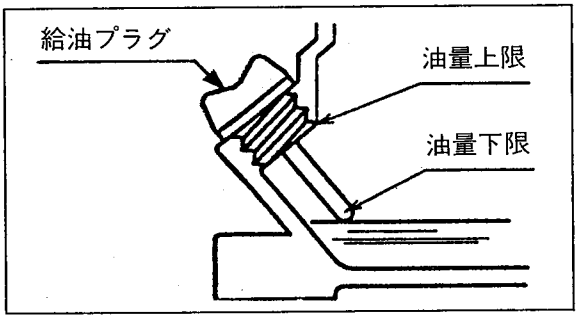
タ　イ　ヤ
➡空気が抜けていないか、また損傷がないか点検します。

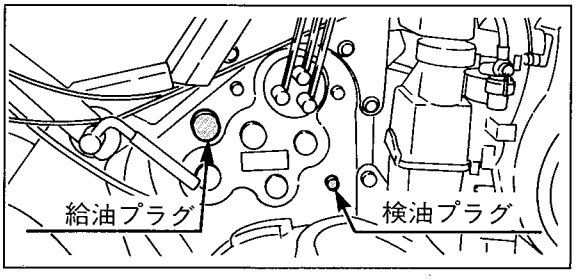
各ケーブル
➡ケーブル注油部より、エンジンオイルを注油します。

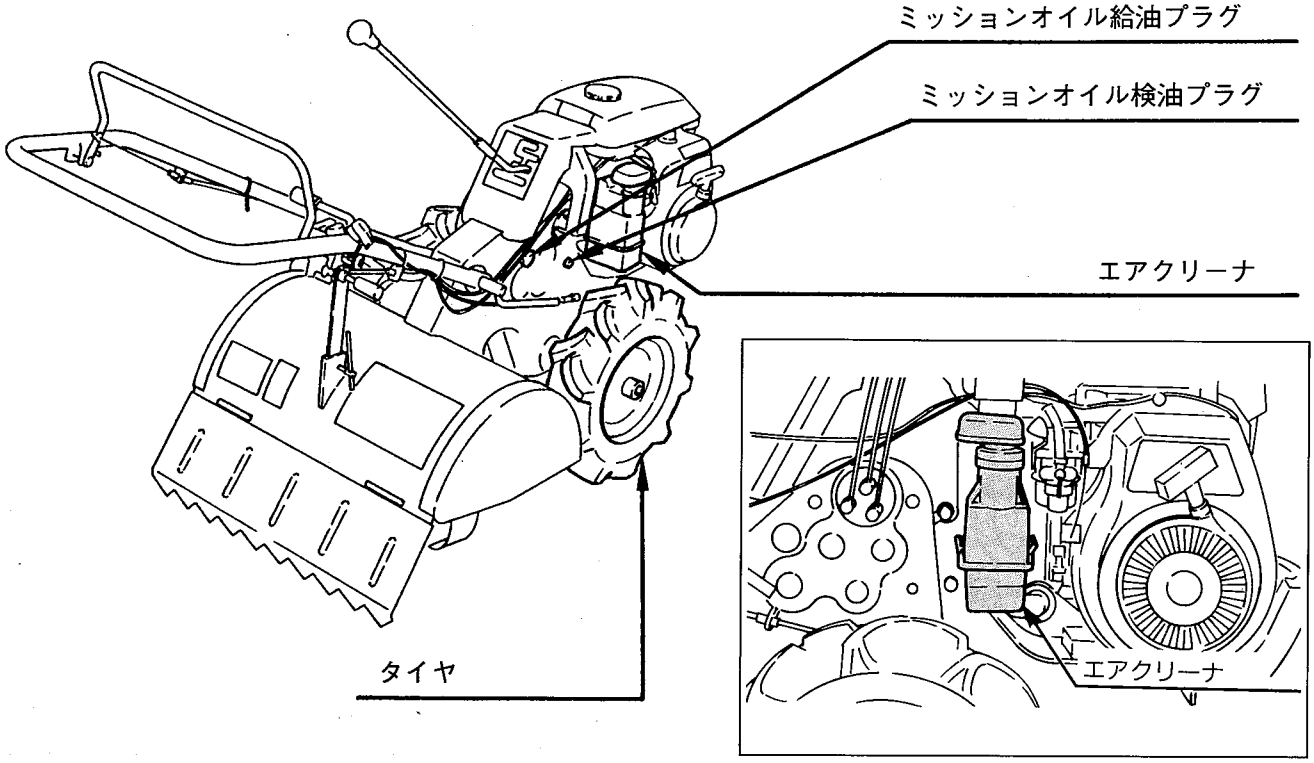
そ　の　他
➡エンジン、ミッションなどから油もれがないか点検します。
➡各しゅう動部へエンジンオイルを注油します。
➡各部の損傷及びボルト・ナットのゆるみがないか点検します。

2　作業前にこれだけチェック●作業前の点検について





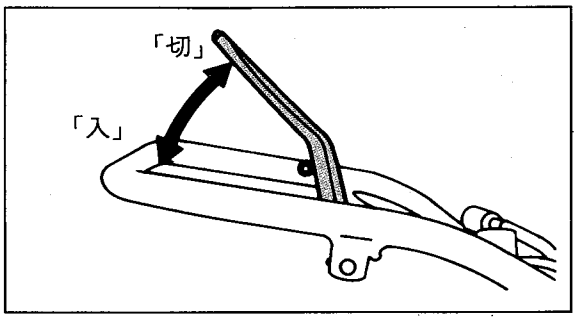




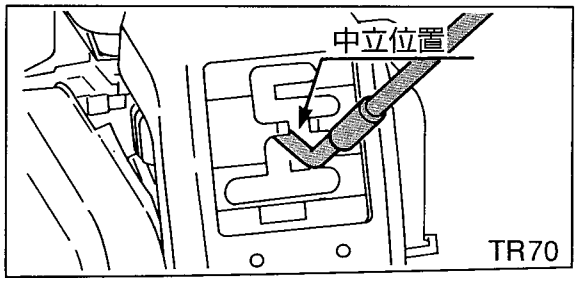
3　このように運転します●上手な運転のしかた

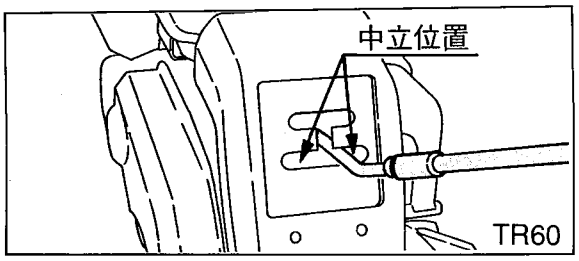
エンジンの始動のしかた

1．主クラッチレバーを「切」にします。

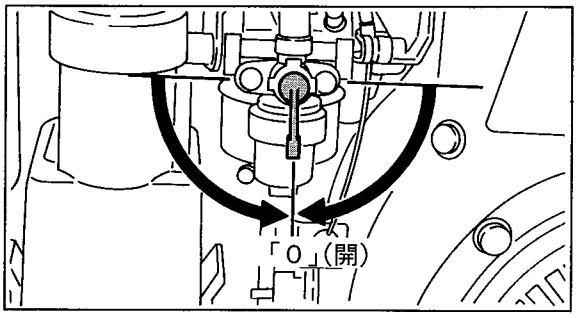


2．変速レバーを「中立」にします。

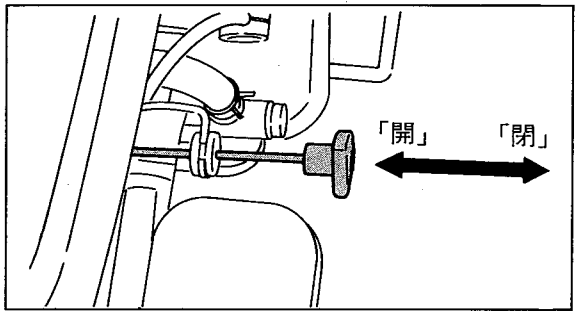




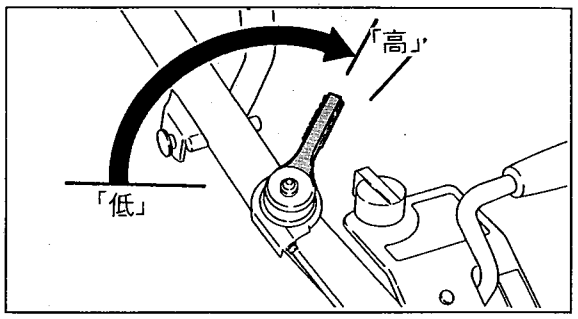
3．燃料コックを「0」（開）にします。



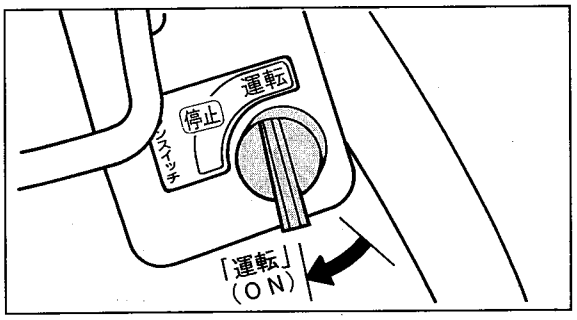
4．チョークレバーを引き「閉」にします。



5．スロットルレバーを「高」にします。



6．エンジンスイッチを「運転」にします。



7．リコイルスタータハンドルを握って、勢いよく引張ります。
エンジンが始動したら、リコイルスタータハンドルを静かに元に戻してください。

8．エンジンの運転状態を確認しながら、チョークレバーを除々に「開」の位置に戻します。

9．2～3分暖気運転をしてから、作業を始めてください。

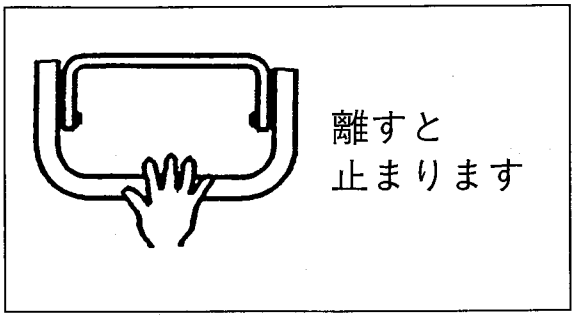
⚠ 警 告

- ●マフラの排気出口方向に、燃えやすい物がないか確認してください。
- ●リコイルスタータを引張る方向に人がいないか突起物、障害物、がないか確かめてから始動してください。
- ●エンジンの運転中は、危険ですからマフラやそのほか操作レバー以外の物には、触れないでください。
- ●夜間作業はしないでください。

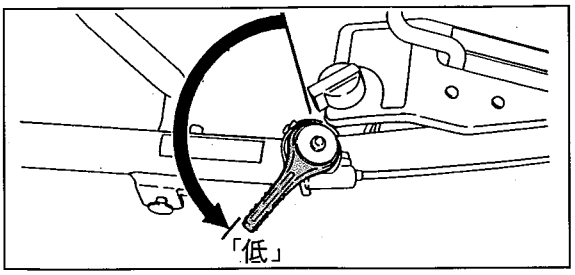
3　このように運転します●上手な運転のしかた

エンジンの停止のしかた

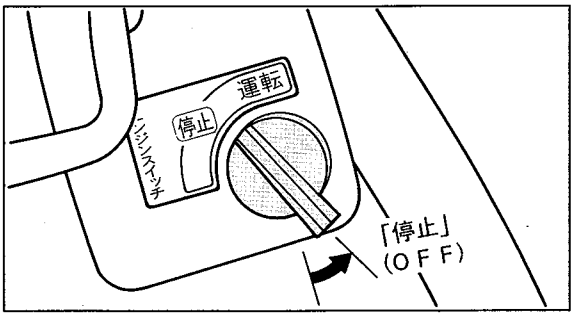
1．主クラッチレバーを「切」にします。(手を離す)



2．スロットルレバーを「低」にします。

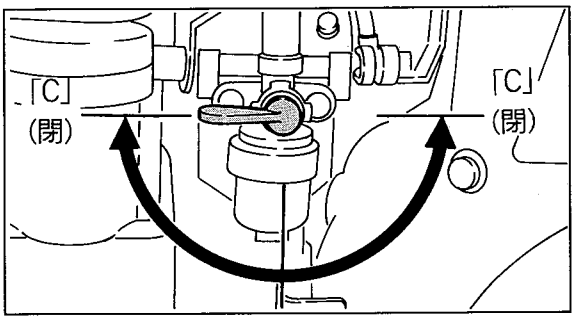


3．エンジンスイッチを「停止」にします。



4．エンジンが停止します。

5．燃料コックを「C」（閉）にします。



⚠ 警　告

●停止直後はマフラーが熱くなっています。手を触れないでください。

ロータリ専用機の運転

1．主クラッチレバーが「切」の位置にある（手を離した状態）ことを確認した後変速レバーを必要な変速位置にします。

2．主クラッチレバーを「入」（握った状態）にすると発進します。

⚠ 警　告

●運転中は周囲に人を近付けないでください。

⚠ 警　告

●傾斜地や後進するときなどは、ハンドルが持上がり危険な場合がありますので、主クラッチをゆっくり操作してください。
●狭い場所や後進の運転についてはエンジンの回転を低速にし後方や上方などまわりの安全を確かめゆっくりと主クラッチ操作をしてください。
●危険を感じたら、早めに手を離してください。

ロータリ専用機の停止

1．主クラッチレバーから手を離すと自動的にクラッチが切れて動力の伝達が停止します。

ならし運転（最初の10時間まで）

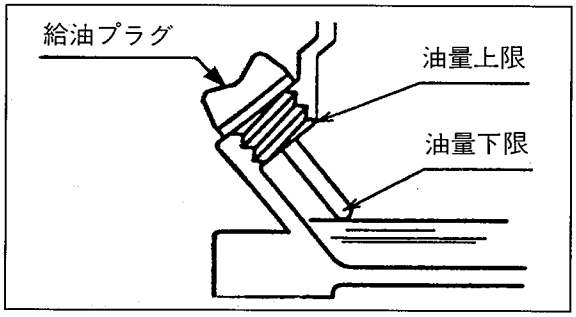
この期間中は各部になじみをつけるため、エンジンを高速回転させたり、過酷な使用はさけ無理をさせないようにしてください。

4　こんなときどうする？●簡単な手入れと処置

エンジンオイル

◆給油

1．エンジンを水平にし給油口の口元まで入れてください。



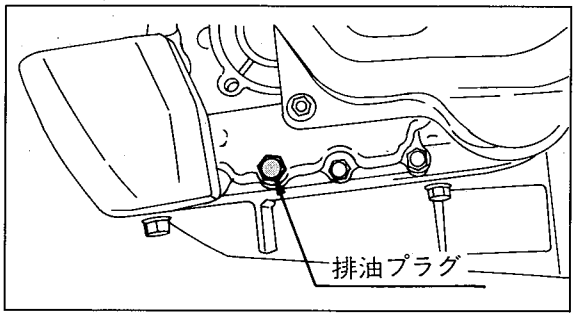
重　要

●粗悪なオイルを使用しますと、エンジンの寿命を急激に縮めますので、販売店・農協でクボタ純オイルG20又はG30と御指定の上、お求めください。（下表参照）

◆排油

1．機体を水平に安定させプラグを外し、排油してください。

●排油・検油・給油後はプラグを確実に締めてください。



ミッションオイル

◆給油

1．機体を水平にし検油口まで給油してください。

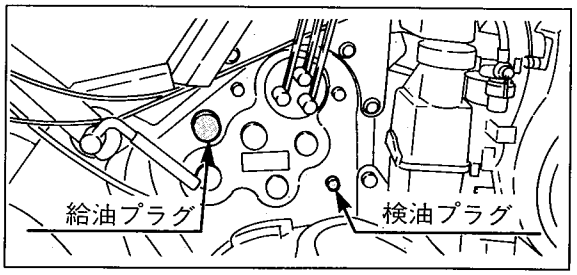
◆排油

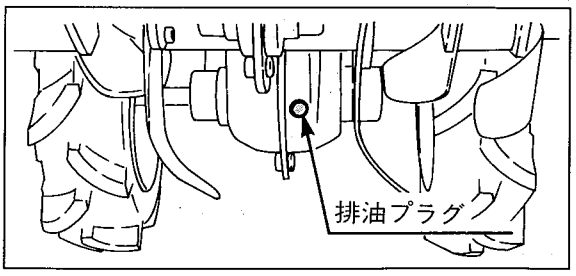
1．排油プラグを外して排油します。

重　要

●粗悪なオイルを使用しますと、機械の寿命を急激に縮めますので、販売店・農協でクボタ純オイルM80B又はUDT と御指定の上、お求めください。（下表参照）

●排油・検油・給油後はプラグを確実に締めてください。





●オイルを交換する場合は、まず旧油を排出しますが、ケース内のゴミも同時に排出させるために、できるだけ運転使用後、オイルが暖まっている状態の時排出してください。

●排出した旧油は空地に捨てたりせず。適切な処理をしてください。

オイルの点検と交換表

項目（オイル量）	点検方法	交換		オイルの種類
		第一回目	以　後	
エンジンオイル（0.6ℓ）	機体水平	20時間使用後	50時間使用後	クボタ純オイル（ガソリンエンジン用）夏G30・冬G20W−20
ミッションオイル（5.5ℓ）	機体水平	20時間使用後	年一回	クボタ純オイル（ミッション用）M80B又はUDT

4　こんなときどうする？●簡単な手入れと処置

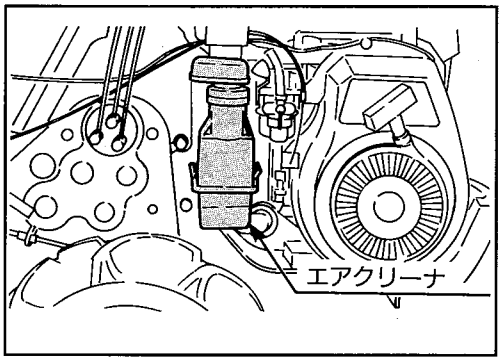
エアクリーナエレメントの清掃

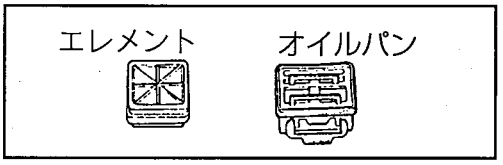
1．中のエレメントを取り外し、白灯油で洗いきれいに振り切って取り付けてください。
2．オイルパンはよく洗浄し、新しいエンジンオイルを規定量（OIL LEVEL 位置）入れてください。

重　要

●汚れたまま使用しますと、エンジンの出力低下や故障の原因になります。

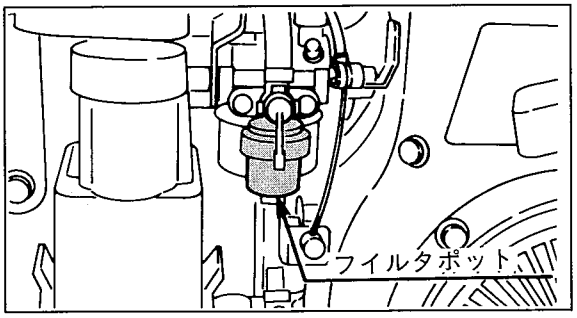
50時間使用ごと	エアクリーナの点検
100時間使用ごと	エアクリーナの清掃





フィルタポットの清掃

ポット内に水やゴミがたまっているときは、燃料コックレバーを「C」（閉）にして、フィルタポットを取外しガソリンできれいに洗浄してください。

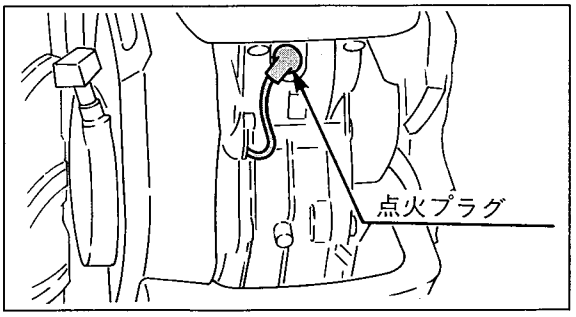


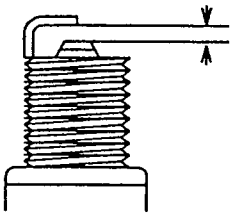
重　要

●取付時、燃料もれのないように確実に締付けてください。

■点火プラグの調節・清掃

1．プラグ用ボックススパナでプラグを外して、清掃します。プラグはフロントカバーを外して取出します。
2．電極のすきまが0.9～1.0mmになるように調節してください。
3．点検調節は6ヶ月に1回行ってください。





使用点火プラグ	NGKBP6HS 又は デンソー W14FPUL-10

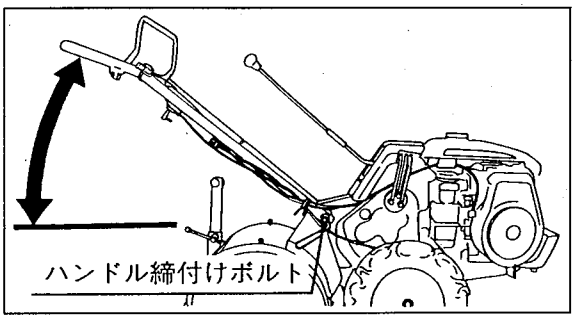
重　要

●締付け時は、ネジ山をつぶさないように、はじめ手で締め込んでから、ボックススパナで締め付けてください。

ハンドル位置の調節

■ハンドルの上下調節

ハンドル締付ボルトを4～5回転ゆるめて、希望する高さに調節してください。



重　要

●調節時は、ハンドルを支えながらボルトをゆるめてください。ハンドルが自重で下がりカバーなどを痛めます。

4　こんなときどうする？●簡単な手入れと処置

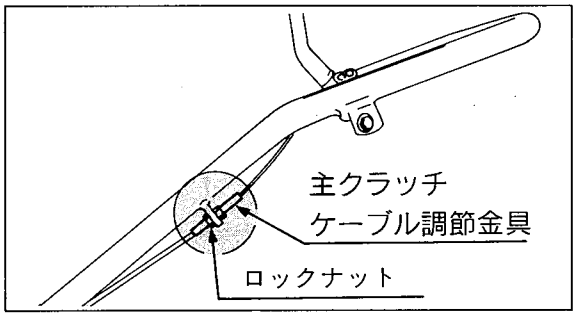
主クラッチの調節

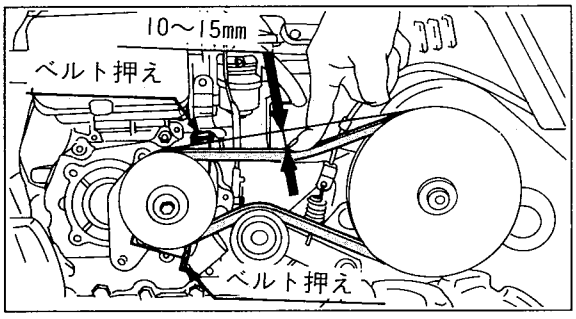
主クラッチレバーは、運転操作の源となる重要なレバーです。確実に断続できるように、次のことがらについて調整してください。

■主クラッチケーブルの調節

1．クラッチレバーを握ってもベルトがすべって動力を伝えない時……調節金具を長くする。
2．クラッチレバーを離してもベルトが連れ回りして、タイヤやロータリ爪の回転が止まらない時……調節金具を短くする。

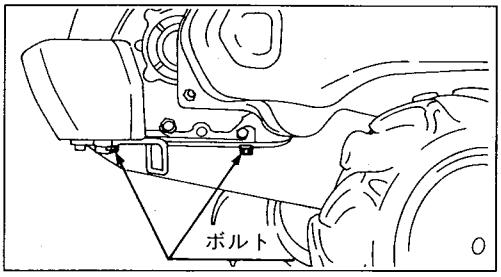
適正なベルトの張り	主クラッチレバーを握った状態でベルト中央部を指先で押えてベルトが10～15mmたわむ程度。





■エンジン前後によるベルトの調節

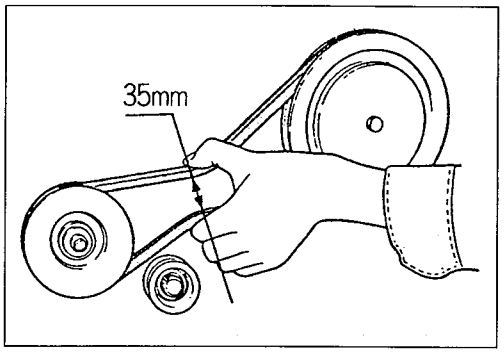
ベルトが伸びてケーブル調節で対応できない場合は、エンジン固定ボルト4本をゆるめて調節してください。調節後は確実にボルトを締めてください。



●エンジンを移動させた場合、主クラッチの調節をやりなおしてください。

■新しいベルトに交換する場合

新しいベルトに交換する場合は、ベルト中央部を指ではさんですき間が約35mmたわむくらいにして、エンジン固定ボルトを締め付けてください。



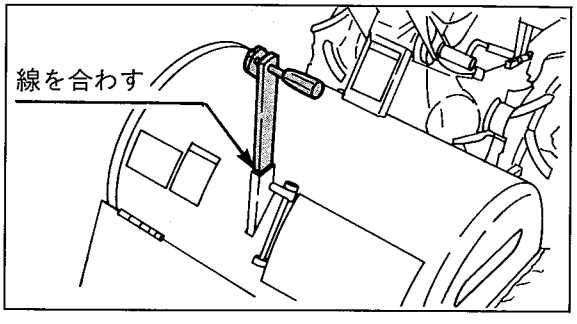
⚠ 警　告

●調整と各部の締付けが終ると、主クラッチレバーを「切」・変速レバーを「中立」にしてエンジンを始動します。主クラッチが「入」の時にベルトが作動し「切」の時に停止するか確認してください。
●調節・交換が終わったら、必ずエンジンを停止してベルトカバーを取付けてください。

抵抗棒位置の調節

抵抗棒は、耕深を決める装置です。ほ場の硬さや必要な耕深によって調節してください。調節は、ジャッキボルトをゆるめ抵抗棒の後部の線をカバー上端に合わせジャッキボルトを締め上げます。

(1)上の線……浅く耕したい時（ロータリ正・逆転）
(2)中の線……標準です。　（ロータリ正・逆転）
(3)下の線……深く耕したい時（ロータリ正転）



4　こんなときどうする？●簡単な手入れと処置

重　要

●調節後は、ジャッキボルトを確実に締めてください。

⚠ 警　告

●抵抗棒の調節時は、エンジンを停止してください。

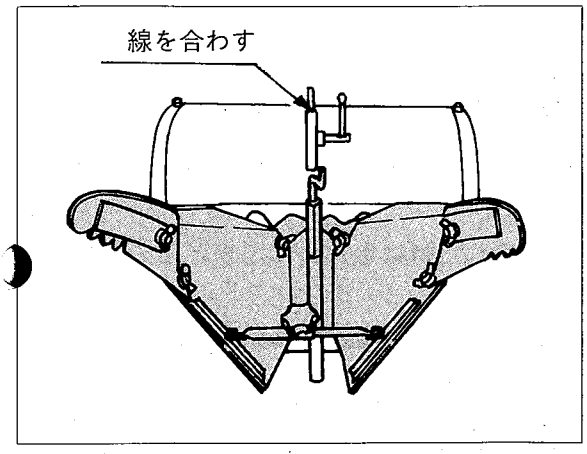
バイドの取付け方

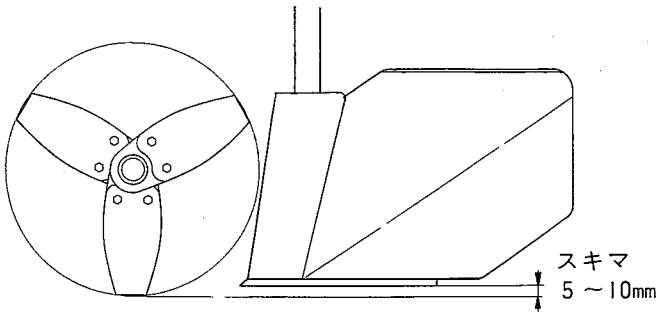
バイドは抵抗棒を外して取り付けます。調節は、抵抗棒の取付けと同じく取付棒の後側にある線をカバー上端に、合わせジャッキボルトを締め上げます。

重　要

●調節後は、ジャッキボルトを確実に締めてください。

●取り付け時は、フラップカバーを上にあげてバイドを挿入してください。





●培土板角度調節用ノブボルトがついていますので、任意の角度に調節してください。

⚠ 警　告

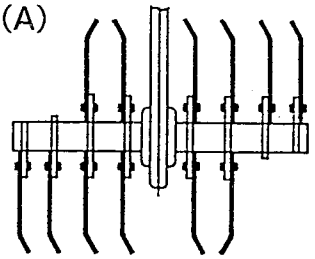
●バイドの取付け時は、エンジンを停止してください。

耕うん爪の取付け方

耕うん爪は作業をする上で、最も大切な装置です。作業を始める前に必ず点検し、摩耗が多い場合は早めに交換してください。又、爪の取付けボルトがゆるんだまま使用しますと、機械の故障の原因になったり爪が脱落します。作業前に、必ずボルトを増し締めしてください。

■耕うん爪は、下図のように取付けます。

1．標準仕様（A）



重　要

●爪を交換後は、ボルトを確実に締めてください。

⚠ 警　告

●爪の交換時は、エンジンを停止してください。

●サイドカバーを外した時は、危険ですから必ず取付け、ボルトを確実に締付けてください。

5　作業が終ったら

長期格納時の手入れ

30日以上使用しない場合は、次の手順で処置をして保管してください。

1．主クラッチレバーは「切」の位置で保管します。
2．燃料は全部抜き取っておきます。
3．オイルを交換し、各部をきれいに掃除します。
4．エアクリーナエレメントを、掃除しておきます。
5．エンジンのシリンダ内に湿気が入って、始動が困難になるのを防止するため、リコイルスタータハンドルを引張って、圧縮位置で止めておきます。
6．カバーをかけ、湿気やホコリのない場所に置いてください。カバーは、エンジンが冷えていることを確認した上で、かけてください。

タイヤ空気圧の調節

空気圧が高過ぎても低過ぎても、タイヤの寿命を縮めます。
定期的に空気圧を調べ、適正になるように調節してください。
空気入れは、自動車用などの高圧式をご使用ください。

適正空気圧	1.2～1.4kg／㎠

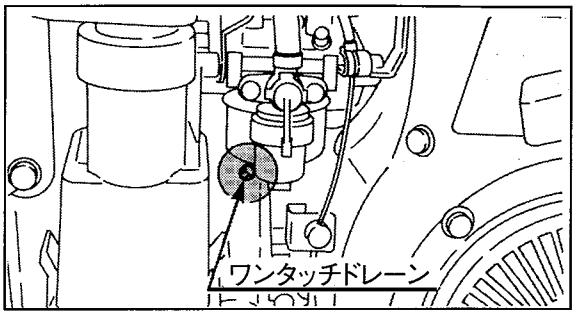
使用後の清掃

使用後は、必ずその日に清掃を行い、各部に付いている土やゴミを落とし、各しゅう動部は錆びないように油やグリス及び防錆剤を適宜塗布してください。
特にファンカバー内にゴミが詰まりますと、エンジンの焼付きなどの原因になりますので、よく点検・清掃を行ってください。

■燃料の抜取り

燃料をそのままにしておきますと、タンクや気化器内のガソリンが変質し、始動不良・運転不調になります。

1．燃料コックを「C」(閉) にし、フィルターポットを取外します。
2．燃料コックの下に燃料受け容器を置き、コックを「O」(開) にして、燃料タンク内のガソリンを抜き取ります。
3．フィルターポットを燃料コックに取付けます。
4．気化器内のガソリンを燃料受け容器を置き、ワンタッチドレーンを引いて完全に抜き取ります。



⚠ 警　告

●燃料を抜く時は火気厳禁、風通しのよい所で行ってください。
●燃料がこぼれた時はきれいにふきとってください。

車両で運搬する時の注意

重　要

■燃料コックレバーを「C」(閉) にしてください。

燃料コックレバーを「C」(閉) にしないで運搬した場合、次の現象が生じます。

●機体の振動で気化器の針弁が振れる。
●エンジンクランクケース内へ燃料が流入する。
●エアクリーナに燃料が流入する。

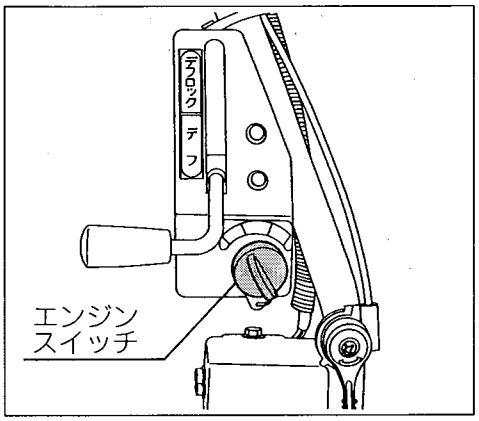
などからエンジン始動が困難な場合がありますので、必ず「C」(閉) にしてください。

E仕様機（セル付）の取扱い

6　E仕様機（セル付）の取扱い

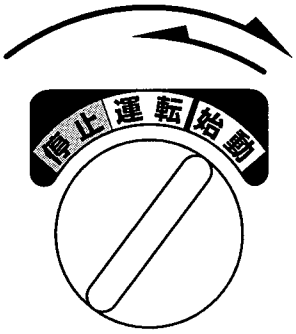
1. エンジンスイッチ

エンジンの始動、停止に用います。



■エンジンの始動

1．主クラッチレバーを「切」にします。
（デッドマンクラッチレバーを離す）
2．主変速レバーも中立にします。
3．燃料コックを「開」にします。
4．アクセルレバーを「高」にします。
5．エンジンスイッチを「始動」の位置まで回し、エンジンを始動します。
6．エンジンが始動したところでエンジンスイッチから手を離してください。
エンジンスイッチは自動的に「運転」の位置に戻ります。
7．２～３分暖機運転を行ってから、作業を始めてください。

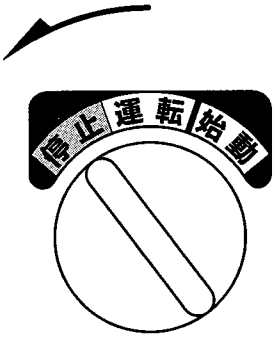


重　要

1．10秒間セルモーターを回しても始動しない場合は、30秒休んでから再始動してください。
2．エンジン始動後エンジンスイッチは必ず「運転」の位置にしておいてください。
3．バッテリが完全に放電し、セルスタータで始動不能になった場合は、エンジンスイッチを「運転」の位置にしてリコイルスタータで始動してください。

■停止のしかた

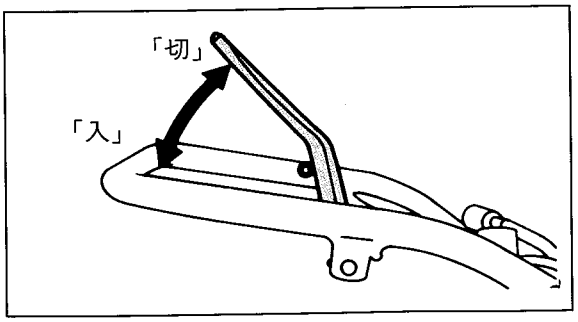
1．主クラッチレバーを「切」にします。
2．アクセルレバーを「低」にします。
3．エンジンスイッチを「停止」にするとエンジンが停止します。



4．燃料コックを「閉」にします。

■発進のしかた

1．主変速レバーを希望の位置にします。
2．主クラッチレバーを「入」にします。
（デッドマンクラッチレバーを握る）



6　E仕様機（セル付）の取扱い

電気配線及びヒューズ

注　意

＊ワイヤハーネス及びバッテリ⊕コードが損傷していると，火災の恐れがあるので必ず点検してください。

＊バッテリ，配線及びマフラやエンジン周辺部にワラクズ，ゴミや燃料の付着などがあると，火災の原因となるので毎日作業前に点検してください。

ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの被覆は各部の角に接触して損傷したり，自然劣化することがありますので，下記の項目を点検してください。

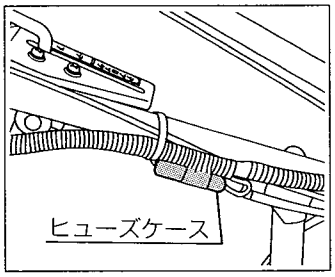
(1)ワイヤハーネスの損傷及びクランプのゆるみがないこと。

(2)ターミナル，ブロック(ソケット)の接続部のゆるみがないこと。

(3)各スイッチが確実に作動すること。

■ヒューズの交換

ワイヤハーネスに組込んだヒューズケースを開いて中のヒューズ（10A）を新しいヒューズと交換してください。



重　要

＊ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙などを使用せず，購入先で点検を受けてください。

バッテリ【E仕様】

注　意

＊バッテリの点検及び取外し時にはエンジンを停止し，エンジンスイッチを“切”にしてください。

＊バッテリに火気を近づけたり，ショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。

＊一般充電器を改造し，補充電用コネクタに接続しないでください。
火災の恐れがあります。

■バッテリの補充電方法

❶バッテリからコードを取外すときは，必ず⊖側から外してください。(⊕側から外すと，工具などが接触したときにショートすることがあります)

❷充電はバッテリの⊕を充電器の⊕に，バッテリの⊖を充電器の⊖に接続して行ないます。充電器は専用充電器(ユアサPS1512)のご使用をお奨め致します。充電器の取扱説明書をよく読んで行なってください。

❸端子電圧を測定し充電状態を確認して，下表の要領で補充電を行なってください。

端子電圧	充電状態	充電方式		
		PS1512使用	小形充電器使用※1	エンジンの運転※2
12.65V以上	100～80%	補充電不要	補充電不要	補充電不要
12.65～12.3V	80～55%	充電中の表示ライト消灯まで	2.5～6時間	1.3～3時間
12.3～12.0V	55～20%		6～10時間	3～5時間
12.0V未満	20～0%		10～12時間	5～6時間

重　要

※1；小形充電器を用いて充電する場合，下記充電電流を厳守してください。

	バッテリ型式	充電電流
TR-E	YT5L-BS(ユアサ)容量(10HR)4Ah	0.4A

※2；エンジン最高回転時の充電時間です。

6　E仕様機（セル付）の取扱い

■補充電後のバッテリ良否判定

補充電完了後，静止状態で60分以上経過後，端子電圧を測定してバッテリの良否を判定してください。

端子電圧	バッテリ良否判定
12.65V以上	良好
12.65～12.0V	再充電（2回まで）
12.0V未満	不良（バッテリ交換）

重　要

＊一般の容量の大きい充電器は絶対使用しないでください。
＊バッテリの充電は，必ず本機から取外して行なってください。
　取付けたままで充電すると電装品，配線などを傷めることがあります。
＊MFバッテリの密閉栓は絶対外さないでください。
　バッテリは完全密閉式ですからバッテリ液の点検，補水は不要です。
＊端子の締付けは確実にしてください。また，端子が錆びないようにグリースを塗布しておいてください。
＊バッテリを再度取付けるときは，バッテリの⊕，⊖コードを元どおり配線し，まわりに接触しないよう締付けてください。
＊バッテリの⊕側には，ゴムブーツを必ず取付けてください。

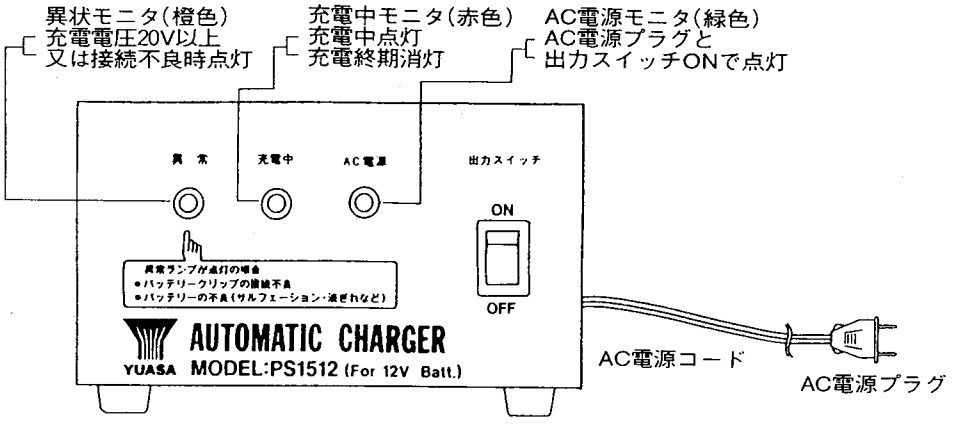
■保存中の管理

バッテリは保存中でも自己放電しますから，夏は2ヵ月に1度，冬は3ヵ月に1度，3時間程度の実作業をするか，同等の空運転を行なうか，又は専用充電器を使用して充電してください。

専用充電器の使用方法

専用充電器はTR-E用バッテリ（YT5L-BS）を全自動で充電することができる最適な充電特性を持つオートマチックチャージャーです。又、放電の程度が深く内部抵抗が大きいバッテリを高い充電電圧により回復を促進する機能や、回復不能バッテリを異常モニタで表示する機能を持っています。
※ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、正しくお使いください。

■部品の名称とモニタ表示



6　E仕様機（セル付）の取扱い

注　意

1.充電中は、タバコなど火気を近づけないでください。
2.充電は屋内の風通しが良く直射日光の当たらない場所で行なってください。
周囲温度0～40℃の範囲内で使用ください。
3.チャージャーの通気孔はふさがないでください。
4.バッテリとチャージャーを接続したり外したりする時は、必ずチャージャーの出力スイッチを「OFF」の位置で行なってください。
5.チャージャーは、ガソリン、シンナーなど揮発性可燃物の近くで使用しないでください。
6.長時間充電を行なう場合でも3日以内としてください。
7.このチャージャーはバッテリの充電以外に使用しないでください。
8.このチャージャーの交流入力は100Vです。指定外の電源電圧で使用しないでください。
9.湿度の高い場所、雨、雪など水分のかかる場所では使用しないでください。
漏電、感電および本器の故障の原因となることがあります。
10.ヒューズ切れが発生したら、原因を取除いてから同一定格のヒューズに取替えてください。定格以上のヒューズを使用すると、充電器の過熱、発火の原因となります。
11.充電器本体や電源コード、出力コードの接続部に、他の金属類を差込んだり、接続しないでください。感電、発熱、および発火の原因となります。
12.木くず、可燃性オイルなど可燃物の近くで使用しないでください。火災の原因となることがあります。
13.異常や不具合が生じた場合、使用者による修理はしないでください。
14.塩害や塵廃、化学性ガス、振動の受けやすい場所で使用したり、保管しないでください。
15.コード類を無理に曲げたり、上に物を載せないでください。また、芯線の腐蝕、切り欠などによる露出がないか確認ください。
16.電源コードは使用しない時は、コンセントから抜いて置いてください。また、コードを引っ張らずプラグを持って抜いてください。
17.本器を分解したり、改造したりしないでください。

付記・主要諸元・走行速度一覧表・主な消耗部品一覧表・標準付属部品

主　要　諸　元

	型式名		TR60	TR60E	TR70	TR70E	TR70S
機体寸法	全長	mm	1450		1450		
	全幅	mm	570		620		
	全高	mm	1060		1080		
	質量（重量）	Kg	100	105	105	110	105
エンジン	名称		GH170-1-TR2-KNT	GH170-1-TR2-8-KNT	GH170-1-TR-KNT	GH170-1-TR-8-KNT	GH170-1-TR2-KNT
	種類		空冷4サイクルOHVガソリンエンジン				
	出力／回転速度	kw／min－1 (PS/rpm)	2.9／1600 (4.0／1600)		3.1／1700 (4.2／1600)		2.9/1600 (4.0/1600)
	最大出力	kw(ps)	4.0(5.5)		4.6(6.2)		4.0(5.5)
	総排気量	cm3(cc)	169				
	始動方式		リコイルスタータ	セルスタータ (リコイル)	リコイルスタータ	セルスタータ (リコイル)	リコイルスタータ
	使用燃料		自動車用レギュラーガソリン				
	燃料タンク容量	ℓ	2.0				
	エアクリーナ方式		湿式エアクリーナ				
	タイヤ		3.50－7		4.00－7		
	主クラッチ方式		ベルトテンション				
	操向クラッチ方式		なし（デフ装置付）				
	変速段数		F2・R1		F3・R1		
ロータリ	駆動方式		センタードライブ				
	耕うん幅	mm	500		550		
	爪回転径	mm	330				
	耕うん軸形状		丸軸（φ29mm）				
	変速段数		正転1・逆転1				
	爪軸回転速度／エンジン回転速度	min－1(rpm)	正転 207／1600 逆転 232／1600		正転 208／1700 逆転 236／1700		正転 207 ／1600 逆転 232 ／1600

付記・主要諸元・走行速度一覧表・主な消耗部品一覧表・標準付属部品

標準附属品

品名	数量/台	備考
ドライバ	1	(プラス)
プラグボックス	1	
取扱説明書	1	
保証書	1	

主な消耗部品一覧表

○本機関係

品名	品番	数量	備考
VベルトSB36	60711-13120	1	
ケーブル（シュクラッチ）	60711-22120	1	
ケーブル（デフロック）	60711-22140	1	
ケーブル（スロットル）	60711-22240	1	
アタマツキピン	05122-50835	2	タイヤ取付用
スナップピン	05515-50800	2	〃
マルピンM10	91201-36430	2	爪軸取付用
スナップピン	05515-51000	2	〃
オイルシール	60711-12960	2	車軸
オイルシール	92201-17490	2	耕うん軸
セイギャクヅメ	60711-26120	12	
バネザガネ（M8）	04512-50080	24	
ナット（M8）	02114-50080	24	

○エンジン関係

品名	品番	数量	備考
スパークプラグ	13902-67710	1	
フィルタエレメント	E3131-43160	1	
エアクリーナパッキン	12643-11300	1	
エアクリーナエレメント	12643-11080	1	
バッテリアッシ(YT5L-BS)	60722-24130	1	YT5L-BS

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年といたします。
ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因となります。

株式会社クボタ

本社	大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号	〒556-0012	電(06)	6648-2111
東京本社	東京都中央区日本橋室町３丁目１番３号	〒103-0022	電(03)	3245-3111
北海道支社	札幌市中央区北３条西３丁目１番地44(札幌富士ビル)	〒060-0003	電(011)	214-3111
東北支社	仙台市青葉区本町２丁目15番11号	〒980-0014	電(022)	267-9000
中部支社	名古屋市中村区名駅３丁目22番８号(大東海ビル)	〒450-0002	電(052)	564-5111
九州支社	福岡市博多区博多駅前３丁目２番８号(住友生命博多ビル)	〒812-0011	電(092)	473-2401
札幌支店	札幌市西区西町北16丁目１番１号	〒063-0061	電(011)	662-2121
仙台支店	名取市田高字原182番地の１	〒981-1221	電(022)	384-5151
東京支店	浦和市西堀５丁目２番36号	〒338-0832	電(048)	862-1121
大阪支店	大阪府堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号	〒590-0806	電(0722)	41-8506
岡山支店	岡山市宍甘275番地	〒703-8216	電(0862)	79-4511
福岡支店	福岡市東区和白丘２丁目２番76号	〒811-0213	電(092)	606-3161
堺製造所	堺市石津北町64番地	〒590-0823	電(0722)	41-1121
宇都宮工場	宇都宮市平出工業団地22番地２	〒321-0905	電(0286)	61-1111
筑波工場	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-2402	電(0297)	52-5112
枚方製造所	枚方市中宮大池１丁目１番１号	〒573-0004	電(0720)	40-1121
西日本総合部品センター	堺市築港新町３丁８番	〒592-8331	電(0722)	45-8601
東日本総合部品センター	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-2402	電(0297)	52-0510
北海道部品センター	北海道北広島市大曲工業団地３丁目１番地	〒061-1274	電(011)	376-2335
九州部品センター	福岡市東区和白丘２丁目２番76号	〒811-0213	電(092)	606-3161
株式会社クボタアグリ東北				
秋田事業所	秋田市寺内字大小路207-54	〒011-0901	電(0188)	45-1601
仙台事業所	宮城県名取市田高字原182番地の１	〒981-1221	電(022)	384-5151
株式会社クボタアグリ東京				
東京事業所	浦和市西堀５丁目２番36号	〒338-0832	電(048)	862-1121
新潟事業所	新潟市上所上１-14-15	〒950-0992	電(025)	285-1261
株式会社クボタアグリ大阪				
金沢事業所	石川県松任市下柏野町956-１	〒924-0038	電(0762)	75-1121
名古屋事業所	愛知県一宮市観音町１番地の１	〒491-0031	電(0586)	24-5111
大阪事業所	大阪府堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号	〒590-0806	電(0722)	41-8550
株式会社クボタアグリ中四国				
米子事業所	米子市米原７丁目１番１号	〒683-0804	電(0859)	33-5011
岡山事業所	岡山市宍甘275番地	〒703-8216	電(0862)	79-4511
高松事業所	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３	〒769-0102	電(0878)	74-5091
株式会社クボタアグリ九州				
福岡事業所	福岡市東区和白丘２丁目２番76号	〒811-0213	電(092)	606-3161
熊本事業所	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-１	〒861-4147	電(096)	357-6181

製造元 **関東農機株式会社**

本社工場　栃木県小山市大字横倉新田493　TEL　0285(27)3271　FAX　0285(27)4627

品番　60721-43113